



## 24 奥秩父妙法嶽

一面

和田英作

昭和三年（一九二八）

油彩、キャンバス

一〇〇・〇×一一・三

本作は、昭和三年（一九二八）の秩父宮雍仁親王の御結婚を奉祝する作品として、学習院より献上されたものである。献上画の揮毫にあたり、和田英作は宮号の由来となった秩父三峰山妙法ヶ岳に足を延ばし、「約三ヶ月間他の一切の仕事をなげうち東京、秩父間を往復したという（『東京朝日新聞』昭和三年九月六日）。文武両道で知られた雍仁親王は、登山にも親しまれ、大正十四年（一九二五）には三峰山に初めて登頂されている。

画面は妙法ヶ岳を中央に据えて、生命感あふれる自然の情景が描かれている。画面を覆うグリーン系統の色彩は一樣ではなく、山の雄渾な姿が緻密な色彩の描き分けで成り立っていることがわかる。山頂には黒雲が間近に迫り、暗さを帯びていることから、あるいは雨が近づいているのかもしれない。

和田は端麗な富士の風景画に定評があったが、本作はそれらとは対照的に、秩父連峰の力強い自然表現が際立っている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan